

2019年6月23日

要望書

長岡京市市長
中小路健吾 様

〒617-0824 京都府長岡京市天神4丁目7-12

有限会社おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部
有田 和生

拝啓、うっとうしい季節を迎えましたが、皆様ますますご隆昌のこととお喜び申し上げます。

わたしたちは当市で居宅介護支援と訪問介護、居宅介護を通じて市民の暮らしを支える事業所を運営しております。

さて、現在市議会で議論されていますゴミ収集にあたっての「指定袋」導入について下記の点を要望致します。

介護が必要な高齢者や障がい者のいる家庭はそのケアを行うために多くの他の世帯にはない出費が生じます。

たとえば

濃縮酸素器は多くの電力を消費しますが、止めることはできません。

洗濯物も多量となるため水道代も一般世帯よりかかります。

その他、ケアを支えるには介護保険利用料や医療費、オムツ代、口腔清拭用具など様々な費用が必要です。

その中で今回検討されている「指定袋」導入はさらにケアに要する費用を押し上げることが危惧されます。

尿を多量に吸ったオムツは大変膨らみます。

そのオムツの容積は一枚のゴミ袋をすぐに一杯にしてしまいます。

つまりケアを要する人がいる世帯ではゴミ袋が多量に必要なのです。

その事情を鑑みた場合、ケアが必要な世帯への「合理的配慮」としてゴミ袋の配布や金銭給付などの負担軽減策が必要であると考えます。

身体が不自由になっても暮らせるまちづくりは、ケアが必要な人が排除されない事です。金銭負担の増加は地域で暮らす条件を阻害します。

ぜひ、指定袋導入にあたっては高齢者や障がい者の生計を圧迫しない検討をお願い致します。

うっとうしい毎日ですが、どうか、ぐれぐれもご自愛下さい。

敬具